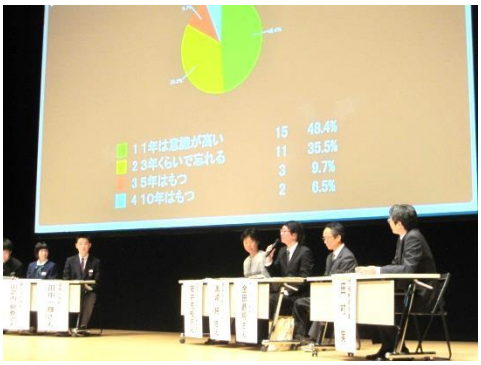
かしわざき

教育センター・育成センター所報

GALILEI



第 14 回　柏崎の教育を語る会
2 月 20 日(土) 会場:アルフォーレ

CONTENTS

○今月の巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１
　★心のお守り
　　教育センター運営委員
　　柏崎保育園　園長　米持　桂子
○教育センターだより ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
　★アクセス（教育研究班） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
　★プロジェクト Ｋ（科学技術教育センター）・・・・・・・・・・Ｐ６
　★心の窓（教育相談班） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ８
○育成センター通信 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ９
○３月の行事予定表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１１
○所員随想「つれづれ」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１１
　★おばちゃんの奮闘記　　教育相談班　　林　由季
○所報ガリレイの発行月の変更について・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１２

平成２８年２月号

柏崎市立教育センター　柏崎市青少年育成センター

今月の巻頭言

心のお守り

教育センター運営委員
柏崎保育園
園長　米持　桂子

私が生まれた昭和３０年代は、三世代同居家族がほとんどでした。私の家も祖父母、父、母、私の５人家族でした。父は会社務め、母は家事と農作業で日々仕事に忙しく、私は祖父母の子守りで育ちました。ちょうど今の時期、寒い冬の朝私は、布団から寝間着のまま起きてきて、こたつにあたっている祖父のあぐらの中に割り込んで入ります。背中は祖父のぬくもり、前はこたつの温かさでぬくぬくしながらしばらく過ごし、それからやっと行動開始していたのでした。日中は、祖母がよく昔話をしてくれました。一般的な昔話ではなく、祖母が子どもの頃に聞いた昔話だったのでしょう。おもしろい笑い話、悲しい話、こわい話といろいろで、情感たっぷりに話してくれたものでした。その当時はなかなか絵本や童話など買ってもらえない時代でしたから、私にとって祖母の語りの時間は、至福のひとときでした。そしていろいろ想像し、イメージをふくらませていたのです。これがずいぶん私の感性を育ててくれたと思っています。また父とはお風呂に一緒にはいり、これまた昔話をしてもらっていました。父の十八番は、「やまんぼう」というこわいお話でした。母は私を寝かしつける時、「七つの子」の歌をよく歌ってくれました。家族がそれぞれ私の為に時間を作り、思いをかけてくれていたとつくづく思います。

さて、今私が勤務している柏崎保育園は園児１５４名が在籍しています。そのほとんどの家庭が核家族で、両親共働きです。仕事と家事、子育てを両立していくことは大変なことです。保育園に子育て支援の大きな役割が求められている今日ですが、保育園の職員がどんなにがんばっても、やはり集団生活という環境です。家庭のようにマンツーマンでの対応は難しいのです。保育園の保護者の皆さんの様子を見ていると、いっぱいいっぱいの状況で日々を送っているように感じます。平日、家に帰ってから“子ども達はどんな時間を過ごしているのかな”と思います。

家に帰るとお母さんは夕食づくりに忙しく、ゆっくり親子のふれ合いを持つゆとりはないと思います。でもそんな日々の中でささいな時間、５分でも１０分でも、その子の為にしっかり向き合って“思いをかける”時間を作って欲しいと思っています。保育園での出来事を子どもが話しかけてきたら、１分でもいいから同じ目線に腰を落として話を聞き、「良かったね。楽しかったね。」とにっこり微笑んであげて欲しいのです。それだけで子どもは、どんなに幸せな気持ちになることでしょう。振り向きもされず、「今忙しいから後で…」と言われるのとでは天地の差です。またお父さんのあぐらの中で、絵本を読んでもらえたらどんなに心地よいでしょう。この乳幼児期にこそ、たくさん「思いをかけてあげること」が日々の子育ての中で大切なのではないかと感じます。

乳幼児期は心の根っこをはる時です。この時期にたくさんかけてもらった「思い」はその子の“心のお守り”になるのです。心のお守りはずっと大人になっても、守り続けてくれます。失敗や挫折をした時に立ち上がれる“心を強くしてくれるお守り”となるのです。今、心のどこか満たされていない・・イライラしやすい子ども達が目立ちます。ぜひ、家庭の日々の生活の中で、その子の為に時間を作り、たっぷり思いをかけ、一生の“心のお守り”を作ってあげて欲しいと願ってやみません。

アクセス

■研修講座

高校生の課題研究の動機から考える、小・中学校での学習指導の視点

◆2/3（水）柏崎高校スーパーサイエンスハイスクール課題研究発表会
柏崎市文化会館アルフォーレ　大ホール（センター講座として紹介します）

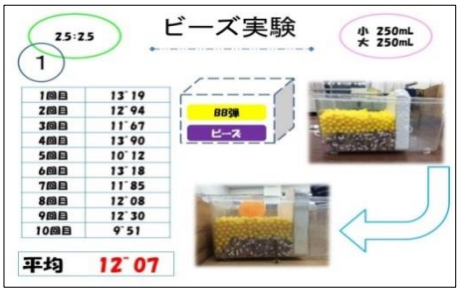
１　スーパーサイエンスハイスクール（以下、ＳＳＨ）とは

柏崎高校は研究機関と連携し、科学技術系人材の育成を目指し、創造性・独創性を高める教育を行うために、文部科学省からＳＳＨに指定されています。（新潟県は全国最多の５校が採択）されています。

２　特徴や学習内容は？（抜粋）

・科学論理的思考力、科学的リテラシーの育成（筑波宇宙センター、新大医学部、東京大学等との連携）
・英語で実験や授業による、英語力とコミュニケーション能力の向上
・韓国の重点高校との科学研究発表交流を通した、国際性を備えたグローバル人材の育成
・電子黒板、タブレット端末やネットワークを活用した数値処理やプレゼンテーション能力の育成の活用
・小・中学校と連携し、地域の科学教育ネットワークを活用した授業による理数系教育の充実、発展
・柏崎サイエンススクール（高校生が小・中学生に授業）の実施

３　課題研究発表会より（２月３日水曜日　アルフォーレ大ホール）



液状化防止実験と結果

（１）　液状化を防ぐために、土地の粒度をどうすればよいか

小学校時の震災経験から、柏崎の液状化防止のために研究をし、この柏崎のために働きたいと思っていたとのことです。研究内容は土地の粒度を様々に変えていったとき、もっとも液状化になりにくい粒度構成を求めていくものでした。

生徒は「柏崎のためにも研究を深めていきたい」と語っていました。

（２）　電磁誘導の効率化

中学校の学習内容から、限りある化石燃料だけでなく身近な運動から効率的に電気を生み出す工夫について、導線の太さ、長さ、巻き方などと磁石との位置関係などをくまなく調べた研究でした。「この技術を生かして柏崎で会社を興したら？」という問いかけに「はっ」とした後、「もし、そういう視点があればさらに高い意識や地域への貢献心をもって研究に打ち込んでいける」と語っていました。

■第 14 回柏崎の教育を語る会「柏崎一受けたい授業」~未来の生き方を考える~

子どもの「自律心」と「地域貢献心」を大切に

◆2/20（土）柏崎市文化会館アルフォーレ　大ホール

今年で１４回目を迎えたこの会ですが、今年度はメディアへの構えを『生き方』にまで高め文化として創っていくことや人口減少社会の中で貢献心をもつ人材育成に果たす教育の役割などを話題にしました。会の冒頭、本間教育長より「ふるさと柏崎を持続、発展させていくには、学校・家庭・地域の教育の力が果たす役割は大きい」等のあいさつがありました。

〇朝の会「ミニ卓球大会を進行して、皆さんに喜んでもらってよかった…」

ミニ卓球大会は第一中学校の卓球部員が進行しました。元卓球の国体選手である本間教育長へ挑んでいく参加者を次々に会場に募ったり、場を盛り上げたりする役割を果たしました。中学生の感想の中に「大会を進行して、皆さんに喜んでもらってよかった」という声がありました。

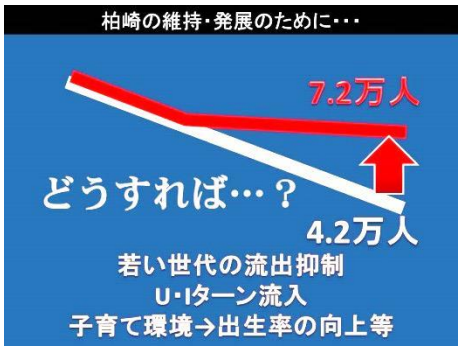
１時間目のフリートークの様子

〇１時間目：「入学式などで伝えていければ…」
中学生と大人「メディア共同宣言」のこれから

「メディア共同宣言」の今後のあり方などを、中学生、大人各３人が話し合いました。「せっかく作った共同宣言だが３年以内に忘れてしまうのでは？」という会場の多くの意見を受け、中学生から「何もしなければそうなってしまう」「入学式で先輩から後輩へ語り次ぎたい」、大人から「中学生が一生懸命に作ったのだから大人の態勢も整えたい」等の意見が出ました。

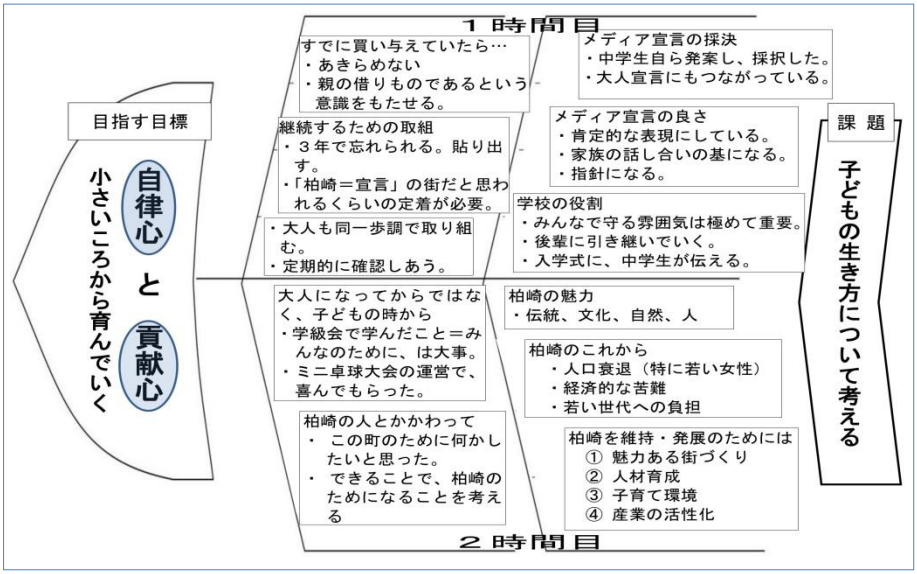
・田村実情報教育主事
　自制心をもつことが自己実現へ向けて重要。今後、宣言内容の一文を取り上げ「この部分はどういうことを言っているの？」など、内容を具体化する対話を、学校、家庭、地域で行ってほしい。（＝メディアにおける自律した人間像の構築）
・中村指導主事
　今の中学生が親になって、その子どもさんが中学生になっても、このメディア宣言が活用されて行くことが大事。（＝そうなって初めて柏崎の「文化」といえる）

〇２時間目：未来志向の「柏崎学」
～人口減の中、柏崎の愛着を深め未来を活性化する子どもを育てるには？～



2060 年時点での柏崎の人口予測（市資料より）

２時間目は「柏崎学」として、子どもたちが柏崎に誇りと愛着をもつため、柏崎の歴史や自然、文化などをウェブミュージアムで紹介しました。その後、2060 年までの人口の減少やそれに伴う危惧を会場全体で確認しました。市内に就職が内定した他県出身の大学生が柏崎の魅力を語ることや、各地域で実施された活動の紹介などから自己有用感、地域貢献などを重視することを重要ポイントとして取り上げました。



語る会の課題と、目指す（目指した）目標、途中のプロセス

＊「柏崎の活性化」を考えるとき、教育の果たす役割もあると思います。そこでは、子どもたちが自制する中で生活を創るような『自律心』や、ふるさとへの愛着と誇りをもち仲間や地域のために行動しようとする『地域貢献心』も大事だと考えます。

■ 柏崎教育情報支援システム/コンテンツサーバ情報

資料を登録しました

◆柏崎教育情報支援システム

実施日	講座名／資料名
1/29	デジタルアルバム作成入門 デジタルアルバム作成入門.pdf（第 4 版）

◆コンテンツサーバ（スクールオフィス）

実施日	講座名／資料名
2/3	スクールオフィス小学校成績管理指導要録様式 2 作成講習 NO21_小学校成績管理設定編.pdf（第 7.1 版） NO24_小学校成績管理指導要録様式 2 作成編.pdf（第 6.2 版）
2/4	スクールオフィス中学校成績管理指導要録様式 2 作成講習 NO25_中学校成績管理設定編.pdf（第 4.2 版） NO28_中学校成績管理指導要録様式 2 作成編.pdf（第 3.2 版）

◆コンテンツサーバ（ポリシー/サポート関連）

登録日	資料名
1/26	許可不要リスト_160126.xls

◆コンテンツサーバ（教育委員会資料）

登録日	資料名
2/1	ALT News Letter 第 45 号

◆コンテンツサーバ（学校教育研究会実践記録集）

実施日	講座名／資料名
2/16	平成 27 年度情報教育研究部実践記録集
2/16	平成 27 年度生徒指導研究部実践報告

■ 情報関連講習会のご案内

3 月に実施される講習会

◆H28.3.18(金) 疑問やトラブルに答える フリーQ&A その 10

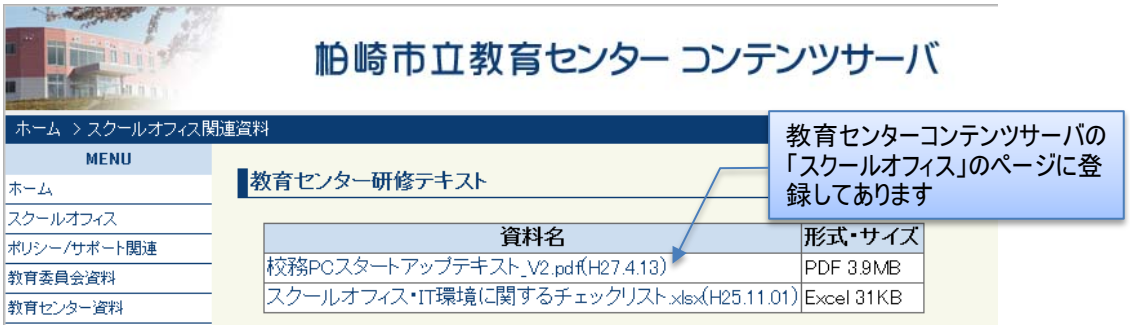
ICT 活用に関すること、パソコンのトラブルや疑問など、自由に相談できる機会を設けました。他の講座のような事前申し込みは不要ですが、前日までにメールや電話で相談内容をご連絡ください。

■ スクールオフィス情報

年度末、年度始め処理のポイント

◆転入者向けに用意した「校務 PC スタートアップテキスト」を活用してください

市外からの転入者向けに、すぐに知っておくべき内容をまとめたテキストを用意しました。柏崎市の環境がどうなっているか、校務 PC を使い始める際に必要な情報や設定、情報セキュリティポリシーに関する情報など、チェックシートを兼ねた作りになっています。



◆クラス替えは年度更新後に行い、クラス数の削減はクラス替えの後に行う

年度内にクラス替えを行ってしまうと、成績の入力や指導要録の作成・出力に影響してしまいますので、年度更新後に行ってください。新年度からクラス数が減る場合は、クラス替えを行った後に減らすようにしてください。

◆転出・退職者の離任処理のタイミングに注意

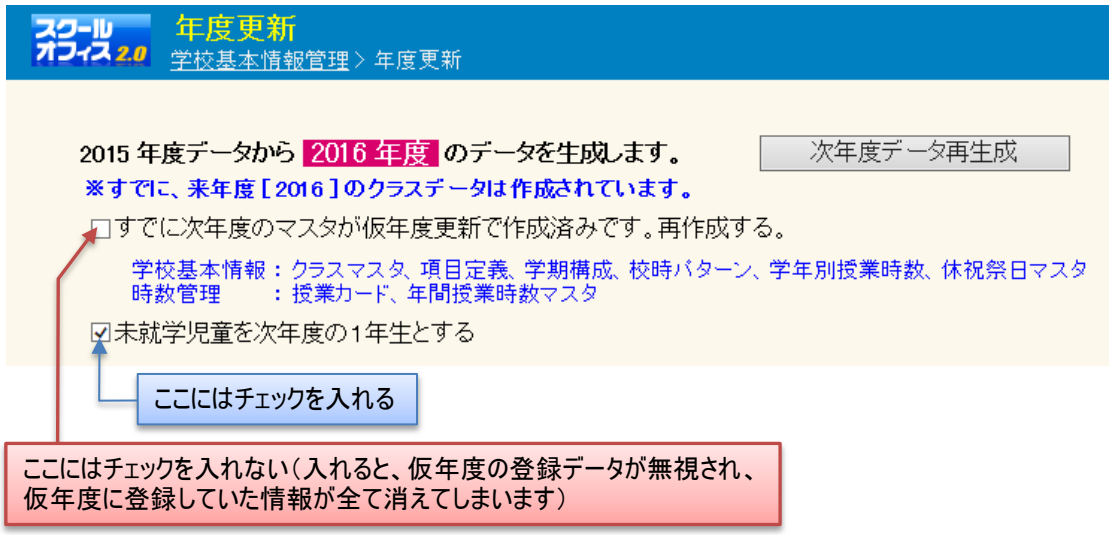
教職員名簿に離任日を入力すると、その日付に関わらず、保存した時点で離任処理が行われます。以降そのユーザーはログインできなくなりますので注意してください。

管理者が転出する場合は、年度更新前に自分を離任処理しないでおき、年度更新を実行した後に新たな管理者を登録してから、前年度の環境に戻って自分の離任処理を行うとよいでしょう。

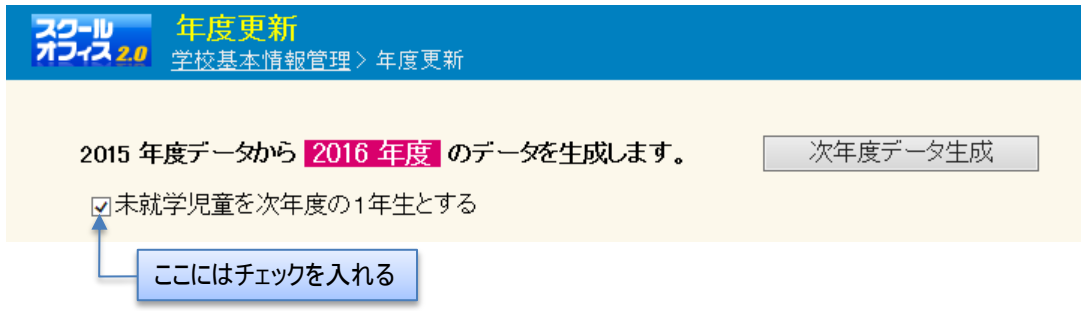
◆年度更新時のチェックボックスに注意

年度更新処理を実行する場合は、以下のチェックボックスの扱いに注意してください。既定値のまま処理を進めてしまうと、仮年度で用意しておいたことが無効になる可能性があります。

【仮年度更新を行ってある（仮年度がある）場合】



【仮年度更新を行っていない（仮年度がない）場合】



■ セキュリティ情報

セキュリティホール情報

マイクロソフトより、2 月 10 日付で 2 月の定期更新として、Windows などの重要な更新が公開されました。最大深刻度「緊急」が 6 件、「重要」が 7 件です。まだ Update が済んでいないようでしたら、至急 Windows Update などを実施していただくようお願いします。

プロジェクト K

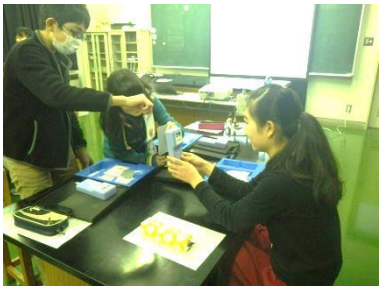
柏崎刈羽地区科学技術教育センターだより

【研修会・事業の様子】＜要請研修・研修サポート＞

○ 鯨波小　放射線教育

◇２月１０日（水）実施

６年生を対象とした放射線教育を行いました。キーワードは「正しく知って、正しく怖がろう」です。霧箱を用いて放射線の飛ぶ様子を観察したり、ベータちゃんを用いて身の周りの線量を測定したりしました。また、放射線の特徴を学んだのち、その特徴を踏まえながら、放射線からの身の守り方を考えました。正しい知識をもって判断し、自分の命をしっかりと守ろうと学習をまとめることができました。



ベータちゃんで放射線の量を測定しました。

薬品の管理を忘れずに

年度末のまとめをする時期になりますが、実験道具や教材の片付けもして終えたいところです。整理整頓をして、次年度が気持ちよくスタートできるようにしていきましょう。そして、年３回の薬品点検も確実に行っておきましょう。

今年度の理セン事業の報告

今年度もあとわずかになりました。おかげ様で予定していた当センター主催の各種研修事業は終了することができました。そこで、今年度実施した事業について、ご報告いたします。

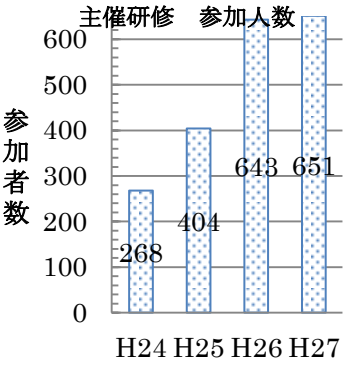
１　研修・科学振興事業

(1)研修講座（教職員向け）

◇主催研修 37 回（昨年度 31 回）

参加人数は昨年度を上回り 651 人でした。プラネタリウムを用いた授業の提案として小６、中３対象の講座を企画し、また、プラネタリウム技能習得研修も開きました。来年度も皆さんの声を反映しながら魅力的な研修を計画するよう努力していきます。

単元別研修（中３）

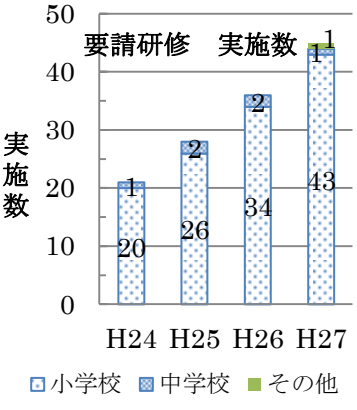


(2)学校等の要請研修

◇要請研修 45 回（昨年度 36 回）

１月末現在で 45 回の要請研修をお受けしました。昨年度よりも増加しています。今年度も科学研究の勧めや、プラネタリウム、星座観察、科学クラブ、川や地層の野外授業、放射線教育・・・といったように多岐にわたっていました。また、PTA 行事、コミセンの活動での要請もありました。

要請研修（PTA 親子行事）



今年度もまだ要請は受け付けておりますので、何かありましたらお電話ください。

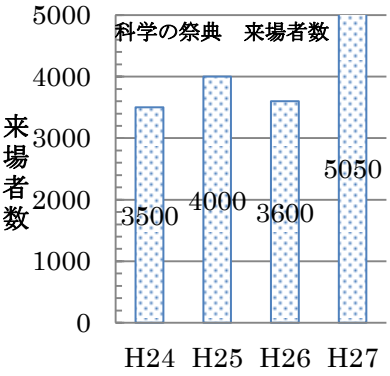
(3)科学教育振興事業

◇科学の祭典参加者数 5050 人（昨年度 3600 人）

◇科学作品展出品数 158 点（昨年度 142 点）

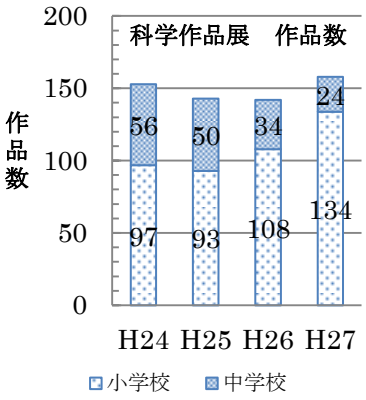
◇科学研究発表会発表数 33 点（昨年度 44 点）・参加学校数 16 校（昨年度 16 校）

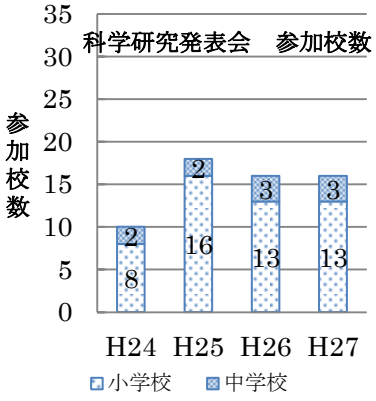
科学研究発表会や科学作品展、科学の祭典（春・秋）等で多くの児童生徒の活動を盛り上げることができました。特に今年度は秋の科学の祭典での来場者数が伸び、児童生徒の関心が高まってきていることを感じました。一方、科学研究の発表数の減少が気になるところであります。参加した学校数も少なく、中学校は３校（全体の２１%）、小学校は１３校（全体の６２%）です。より多くの学校から参加していただきたいと考えています。また、科学作品展の出品数は増えていますが、質の低下を審査員の皆様から指摘されました。多くの児童生徒からの参加と共に、その質も向上していくよう、ご指導をよろしくお願いいたします。

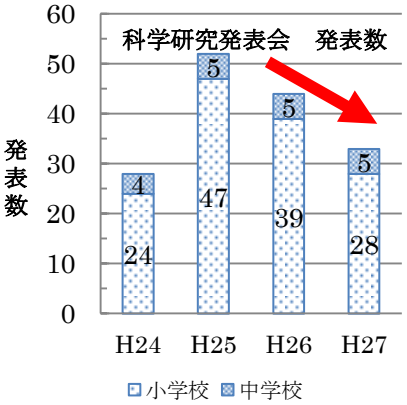


科学の祭典（17 ブースの出店・チャレンジ研究室）

児童生徒科学研究発表会



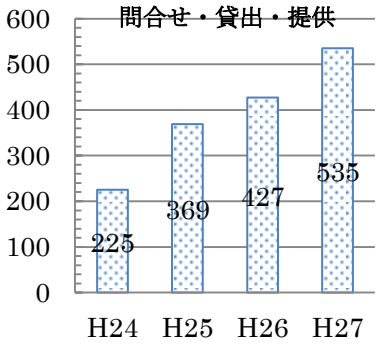




２　科学教育支援事業

◇問合せ・貸出・提供の総件数 535 件（昨年度 427 件）

年度当初の理科主任会でお配りした備品一覧表をもとに貸し出しを行いました。お電話一本で必要なものがあるのか確認できます。今年もたくさんの方々にご利用いただきました。また、「この実験うまくいかなかったんだけれど、どうしてですか？」とか「教科書ではこういう結果だけど、どうしてもうまくいかない・・・」など授業で疑問に思ったことを尋ねてくる学校もありました。一緒により良い指導法を考えるチャンスをいただきました。



３　地域との連携

科学の祭典や放射線教育、各種研修で地域の企業の方・教育関係者の方と連携して事業を進めることができました。柏崎市内には講師としてお招きできる学識者の方々がたくさんいらっしゃいます。また、博物館や夢の森公園などもあります。理科センターはそれらの人材や地域教材を紹介するコーディネーターとしての役割も担っていけるように活動を進めていきます。

今後とも、身近な理科センターを目指してがんばります。

平成２７年度　柏崎市立教育センター　　教育相談班だより　２月号

心の窓

No.１９８

〒９４５－１３５５
柏崎市大字軽井川４８０３－２
ＴＥＬ　０２５７（２３）４５９１(代表)
ＦＡＸ　０２５７（２３）４６１０
E-mail　Soudan @ kenet.ed.jp

☆ふれあいルームより☆

ヨガ教室

今年も渡邉美香先生をお招きし、タイ式ヨガ≪ルーシーダットン≫を体験しました。先生のご指導のもと、ゆっくりとした無理のない優しいポーズと体の代謝をよくする呼吸法で、寒さで固まっていた体もぽかぽかと温まりました。体験後は先生への感謝の言葉や感想を一人一人発表することができました。体を動かし、温まった子供達の表情はいつもよりとても柔らかく、優しくなり、心も体もリラックスした時間となりました。

スキー・雪遊び体験

2月 10 日、高柳ガルルスキー場へ行ってきました。今年は「スキー班」と「雪遊び班」に分かれ、それぞれ、スキー、そり、雪だるま作りなどを楽しみました。平日ということもあり、ゲレンデはほぼ貸切状態だったので、スキーもそりも思いっきり滑ることができました。お昼はみんなで一緒にガルルハウスで、午前中の体験話をしながらカレーやスパゲティを食べました。普段は家にこもって過ごすことの多い子供達ですが、寒さが苦手な子も体を動かすことが苦手な子も寒さを忘れ、冬の一日を楽しんでいました。

（ふれあいルーム指導員　須藤直子）

◇◆◇◆◇◆

育成センター通信

0857

柏崎市青少年育成センター
〒945-1355 柏崎市大字軽井川４８０３番地２
℡0257-20-7601 FAX0257-23-4610
ikusei@city.kashiwazaki.lg.jp

「メディア共同宣言」発せられる！

１月30日（土）、西山ふるさと館において、「中学生と大人のメディア共同宣言」を行いました。

メディア使用から発生する様々な問題は、個人・家庭・学校内だけでは解決できません。中学生だけが取り組んでも効果は少なく、周りにいる幼児・小学生・高校生そして大人も本気になって取り組まなければならないという強い危機感からスタートした話し合いが、このような形で実を結び、共同宣言として発することができました。

中学生は、昨年２月の教育を語る会を発端にして、約10か月かけて全14中学校生徒約2,000人がかかわって、宣言文を考えてきました。

Ⅰ　宣言文そのものよりも、作る過程でみんながかかわったこと

Ⅱ　「使用は何時まで」ということより、「何のために」という目的を大切にする

Ⅲ　メディア機器との付き合い方を自分で具体的に考えたり、家庭・学校・地域などでのルール作りやその見直しをしたりするときの「指針」や「もと」になるものにする。

Ⅳ　できるだけ「○○しない、ダメ」という言い方でなく、「○○します！」という言い方にする。

の４つのことを大事にしてまとめあげました。

柏崎、刈羽地区　中学生メディア共同宣言

① 自分の生活を設計、行動していくために… → 目　的
メディア機器は親から借りているものという意識をもち、 → 考え方
「自分をコントロールして、けじめのある」生活をします。 → 行　動

② 学習の時間や質を確保するために…
自分だけでなく友達の学習時間や質も大切にし、
「メディアと学習、それぞれの時間と場所を分け優先順位を考えた」生活をします。

③ 友達との望ましい関係を築くために…
悪口を書いたり見逃したりすることのない関係をめざし、
「メディア機器の有無にかかわらず、直接顔を見て話す機会」を増やします。

大人側の「子どもとメディアを考える会」では、「育成センター通信」0856 号にも掲載したように

Ⅰ 大人が手本となるようマナーを守り、危険性についても知る。

Ⅱ一方的に押し付けられたルールではなく、親子間でよく話し合う。

Ⅲ ネット上の有害情報から子どもたちを守る

Ⅳ 夜間の発信は、相手を気遣う

の４つの観点から話し合いを続け、下記のような宣言文にまとめました。大人からのルールの押し付けにならないよう、中学生の自主性を尊重した宣言文にしようと話し合ってきたものです。

ケータイ・スマホ等に関する共同宣言

私たちは、ネット社会の弊害から子どもたちを守るために

一、ケータイ・スマホ等のマナーを守り、利便性と危険性についても勉強します。

一、ケータイ・スマホ等の利用についての家庭内ルールを作ります。

一、適切なフィルタリングサービスを設定します。

一、他の家族・子どもたちの生活・健康・学習等を守るため、ケータイ・スマホ等による夜間の発信は自粛します。

平成２８年１月　子どもとメディアを考える会

柏崎市小中学校 PTA 連合会　柏崎地区高等学校 PTA 連合会
柏崎市子ども会連合会　柏崎市青少年健全育成市民会議
刈羽村青少年育成村民会議

当日は、約 220 名の参加があり、この共同宣言を見守りました。子ども・大人がそれぞれ別々に発表するのではなく、子どもと大人が一堂に会して公の場で宣言したことは、子どもと大人が本気になってメディアの正しい使い方について取り組んでいこうとする強い意志を表明したものです。

今後は、この宣言文を広く浸透させ、一人一人が自分のものとし、友達や家族、そして地域の大人たちと共に具現化していくことが大切になります。中学生は、話し合いを重ねてきたので、それを基にしっかり取り組んでいけると思いますが、それ以外の子どもや大人はこの共同宣言の趣旨を理解し、「みんなで取り組もう」「大人が手本を示し、地域で連携して子どもたちを見守ろう」という気運を高めていかなければなりません。

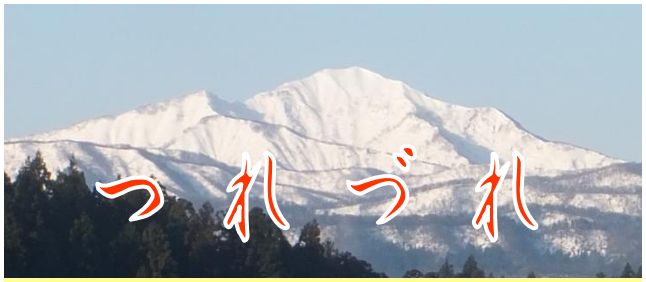
『*柏崎市は中学生と大人が共同宣言をして、メディアについてしっかり取り組んでいる！*』地域であることを新潟県、そして全国に知らしめたいものです。

広報かしわざき３月５日号に、メディア特集として掲載されます。そちらの方もご覧ください。

３月の行事予定表

日	曜	研修・行事・会議
1	火	
2	水	
3	木	
4	金	相：いろいろ体験グループ保護者会A・B
5	土	
6	日	
7	月	相：班会議13:00-
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	ふ：ソフィアセンター10:00- 相：いろいろ体験グループ保護者会C
12	土	
13	日	
14	月	
15	火	ふ：保護者会15:00-
16	水	
17	木	相：いろいろ体験グループ保護者会中①
18	金	情：フリーＱ＆Ａ 相：いろいろ体験グループ保護者会中②
19	土	
20	日	春分の日
21	月	春分の日振替休日
22	火	
23	水	
24	木	ふ：後期後半通級終了
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	
30	水	
31	木	

研・教育研究班　　科・科学技術教育　　相・教育相談班
ふ・ふれあいルーム　情・情報教育研修　育：育成センター



所　員　随　想

おばちゃんの奮闘記

教育相談係　相談員　　林　由季

私は３人きょうだいの末っ子なのですが、一昨々年に姉のところに男の子が生まれ、一昨年は姉のところに女の子、去年は兄のところに男の子が生まれました。私も晴れて叔母さんです。これまで、GW、お盆、お正月と実家へ帰省することは義務のようでしたが、ここ数年は「子どもたちに会える！」と楽しみでもあります。お菓子をあげてみたり、延々と同じ遊びに付き合ったり。時には抱っこをして大泣きされたり、私の服で鼻水を拭かれたりすることも。それでも、叔母として何としてでも子どもたちから好かれたいと、帰る度に必死になるのです。

最近では、帰省するたび「おばちゃんだよ～」「おばちゃんが帰ってきたよ～」と家族中から言われながら迎え入れられます。たしかに“叔母ちゃん”なのですが、その言葉の響きが何とも言えず、帰るたびにどんどん老けていくような感覚になります。そのため、子どもたちからは名前で呼ばれたいと思い、帰るたび「ゆきちゃんだよ～」と言い聞かせるのです。すると甥っ子は「ゆきちゃん！」と目をキラキラさせていました。聞くと、Ｅテレの「いないいないばあっ！」という番組に出てくる女の子も“ゆきちゃん”と言うそうです。ラッキー！しばらくはその年の離れた可愛い“ゆきちゃん”の力を勝手に借りて、子どもたちを懐かせようと考えています。まずは歌の練習です。

ガリレイ発行月変更のお知らせ

平成 28 年度から教育センター　青少年育成センター　所報「ガリレイ」の発行月を以下の通り変更いたします。

【発行頻度の変更】

平成 27 年度まで所報「ガリレイ」は毎月発行で、紙に印刷したものを学校、コミセンなど関係機関等に配布してまいりました。これを、平成 28 年度からは四半期ごとの年４回発行にいたします。

毎月発行　→　四半期ごと、年４回発行

【発行方法の変更】

印刷物での配布を最小限にし、電子データを市ホームページ等で配信するように変更しようというものです。現在も市ホームページで「校務支援システム」と検索し、このトップページ左上に過去のものまで掲載してありますが、これに加え、市ホームページでも閲覧いただけるよう検討してまいります。

【変更の理由】

以下の理由から、27 年度において検討を重ね、変更することといたしました。

○市では、全庁的な業務改善活動に取り組むこととなった。
○本年７月から「広報かしわざき」が月２回発行から月１回発行に変更となること。
○毎月の紙面作成に多くの時間をかけているが、本当に必要な情報が発信されているか、必要な情報として見ていただいているか疑問な点があること。
○厳選した情報のみを発信したほうが、より見ていただけると思われる。
○電子データでの配信が一般的になり、印刷物での配信だと配布先の皆様の保存・廃棄等の手間がかかること。
○印刷費の縮減、人員減への対応。

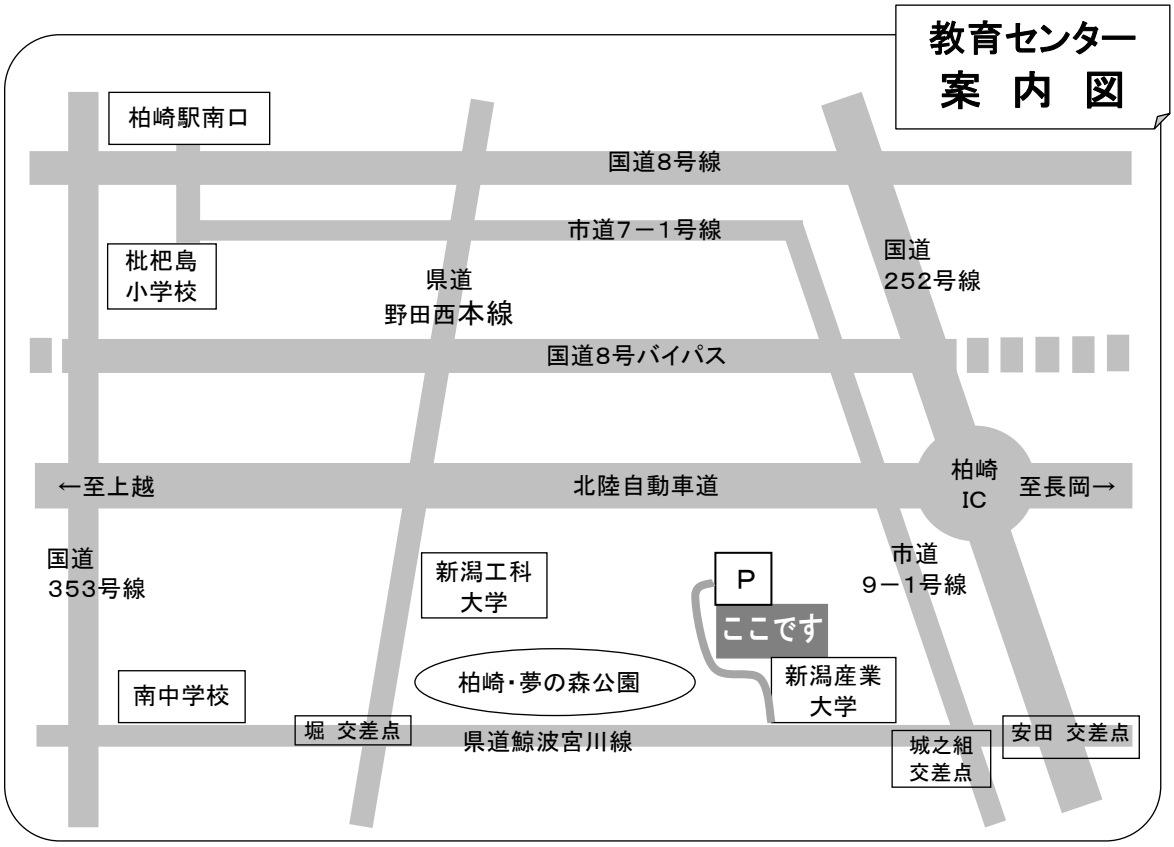
【研修講座などの情報発信】

教育センター研修講座などのタイムリーな情報発信は、個別に情報校務支援システムなどで必要な方に届くように配慮する。

【その他】

○2 月 17 日開催の「教育センター運営委員会」において説明。異論がなく終了した。
○市業務改善計画発表会・表彰式において、教育委員会代表としてこの取り組みを発表・表彰された。

教育センター業務改善計画発表
市長から表彰を受ける。



〒945-1355　柏崎市大字軽井川４８０３番地２（新潟産業大学キャンパス内）

※路線バスは、柏崎駅南口から新潟産業大学行きをご利用ください。

※車でお越しの方は、キャンパス内では徐行をお願いします。

電子版の閲覧

イタリアの天文学者ガリレオ・ガリレイのたゆまぬ創造と検証の精神にちなみ、教育センター所報を「GALILEI」と名づけています。

インターネット(カラー)版は、柏崎市HPで「柏崎市教育情報支援システム」を検索し、この支援システムトップ画面右上の所報「GALILEI」をクリックすると過去のガリレイも閲覧できます。

教育センター代表ＴＥＬ：０２５７－２３－４５９１
代表ＦＡＸ：０２５７－２３－４６１０
E-mail：k-center@city.kashiwazaki.lg.jp
教育研究班・情報教育ＴＥＬ：０２５７－２３－１１６８
E-mail：kec@kenet.ed.jp
教育研究班（科学技術教育）ＴＥＬ：０２５７－２０－０２１２
E-mail：kagaku@kenet.ed.jp
教育相談班（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞﾙｰﾑ）ＴＥＬ：０２５７－３２－３３９７
E-mail：soudan@kenet.ed.jp
教育相談班（いじめ不登校電話相談）
ＴＥＬ：０２５７－２２－４１１５
青少年育成センターＴＥＬ：０２５７－２０－７６０１
E-mail：ikusei@city.kashiwazaki.lg.jp
教育情報支援システムURL：http://kedu.kenet.ed.jp

平成２８年２月発行